

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	663-1 観光振興事業(イベント等の開催)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
基本施策	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	目	03	観光費
		細目	336	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	観光振興経費
担当部課	コード	191400		担当者氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
		連絡先	川部 千佳	43 - 2309 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内、市外及び県外の観光客	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の観光素材をイベント化しPRすることで、メディア等の注目が集まり、新規観光客の誘客につながる。また、イベントの充実でリピーターが増大する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	○伊賀上野NINJAフェスタ実行委員会(市内の18団体で構成、事務局は商工観光課)にNINJAフェスタの実施に係る経費の一部を負担した。 ※平成21年4月1日から平成21年5月6日まで開催。忍者衣装変身処8ヶ所(街中の変身処も含む)、忍者道場7ヶ所開設、その他多数の日替わり、協賛イベントを開催 ○上野城薪能実施委員会に、薪能の実施に係る経費の一部を負担した。 ※平成21年10月3日に薪能開催	
社会情勢の変化等	各メディアに数多く取り上げられ、フェスタ及び伊賀市の存在を全国的に情報発信することができ、厳しい社会情勢により一旦、落ち込んだ入込客数も僅かながら持ち直した。更なる新規観光客の誘客を図るため、平成23年度において伊賀上野城築城400年記念事業の展開を予定している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
各種媒体によるPR件数		件	目標	45	目標	60
			実績	64	実績	96
NINJAフェスタ実行委員会・部会会議開催数		回	目標	7	目標	7
			実績	7	実績	9

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
忍者衣装変身者数			人	目標	8700	目標	7500
				実績	10153	実績	7735
薪能来場者数			人	目標	750	目標	700
				実績	596	実績	1300

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	5,000	2,655	2,655	2,655	32,655			
Aの財源内訳	国庫支出金		1,000					
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0	0	0	
一般財源	5,000	1,655	2,655	2,655	32,655			
事業投入人件費(B)	2.0人 14,400							
フルコスト(A)+(B)	19,400	17,055	17,055	17,055	47,055			

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○	
観光振興を積極的に取組むことによって集客交流が促進され、それに伴い経済活動や地域の活性化が見込まれるため、伊賀市が観光都市として進むことへの市民ニーズは高い。		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	○	
地場産業や地域経済が疲弊している状況においては、観光産業は成長性の高い産業であり、また波及効果の裾野が広い産業であるため従来にもまして重要な役割を担い、経済活性化への切り札になりうるものと考えられ、市民生活にプラスの影響を与えることができる。		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	忍者フェスタの個々のイベントについてはそれぞれの団体で運営する体制ができてきており、市は全体の事業と「忍者変身処」の運営を行っているが、その間と部分をもっと市民サイドへ移行できないか更に検討を進める。また日常的な忍者の活用としてフェスタ期間以外における忍者衣装の貸出し等を行った。今後は、貸出し主体、料金等について検討を行う。薪能は固定客の増加を観光商品化のなかで探っていくとともに、開催経費の節減策について検討する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 NINJAフェスタの各道場の運営や個々のイベントについては地域住民や各団体で自主的な運営を行うことができた。また、それを支える市民ボランティアの数も増えてきている。忍者衣装の貸出し業務については、H22年度は緊急雇用対策事業を活用し、貸出し業務を行うよう体制の検討を行った。薪能の実施については、演者を変更するなどして経費の節減に努めた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
【方向性】	現状維持
【理由】	伊賀市の観光振興を図るとともに、市民参加と市街地の活性化に寄与するため、さらに市民が積極的にに関わり、観光客との集客交流が促進されるよう、イベント内容の充実を図る。
現時点における課題、その他	イベント運営体制の強化および観光客の受入れ体制(おもてなし・駐車場・安全対策)の構築
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	来年度の事業開催までに実行委員会において課題の洗い出しと解決に向けた検討を行う。